金沢大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)の概要

Ⅰ 背景・目的

1.背景: 角間キャンパスへの総合移転や病院再整備等により、整備時期が集中しているため、施設の老朽時期が集中する。

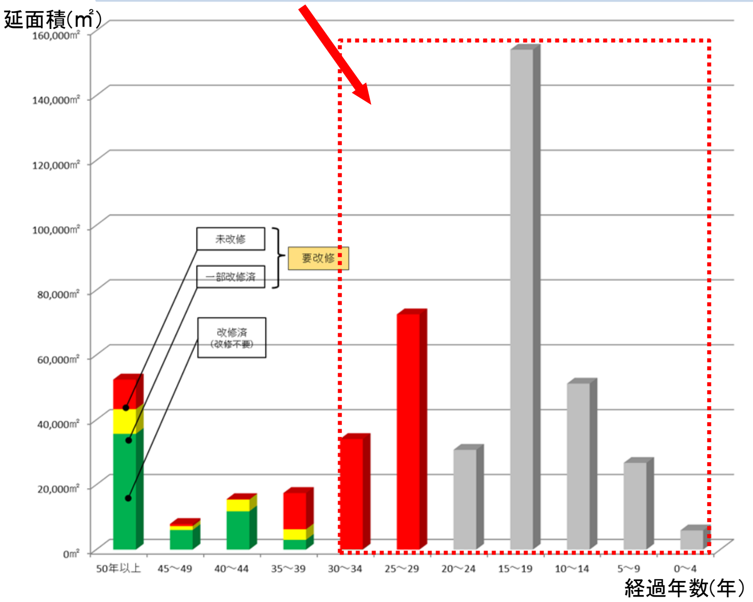
2.目的: 施設の長寿命化、省エネ化を図りコストの平準化、ライフサイクルコストの縮減を行う。

3.計画期間: 令和39年までの40年を計画期間とする。

4.対象施設: 本学が保有する全施設(延面積約466,000㎡)を対象とする。

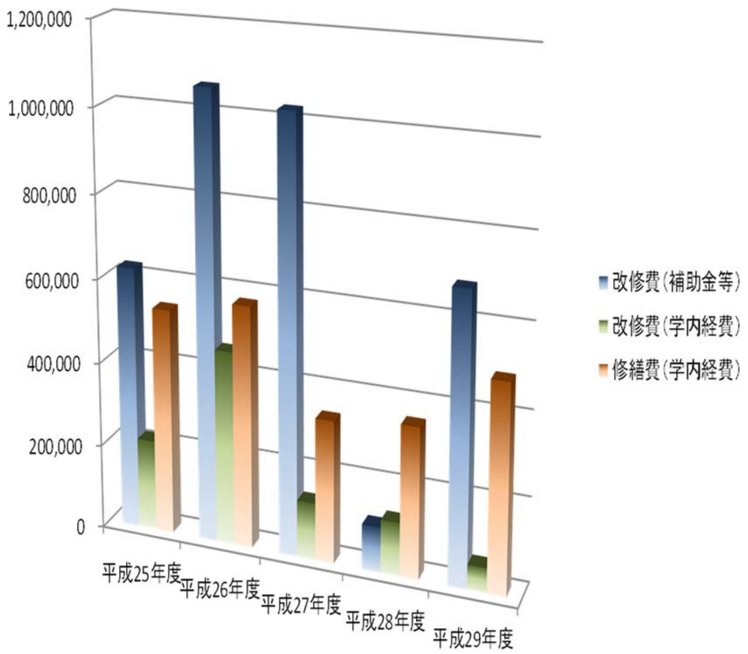
同時期に整備したため、施設設備の老朽化も同時期に進行している。

今後は経年による老朽施設面積が加速度的に増えることにより、維持費や修繕等に係る経費の増大が見込まれる。
このため、施設の長寿命化、コストの平準化が必須である。



Ⅱ 施設の実態

「過去5か年の改修費及び修繕費」



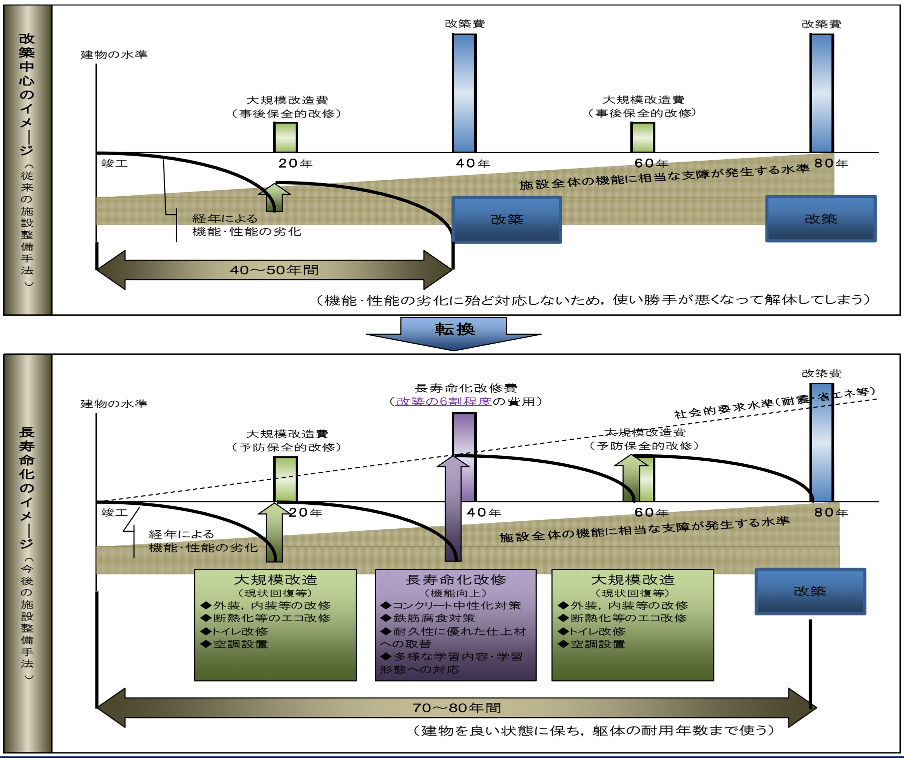
施設の実態及び整備費・修繕費の試算

- 本学は敷地面積約2,667,000㎡、棟数162棟、建物延面積約66,000㎡を保有している。
- 施設の修繕費を試算すると40年間で約118億円強の経費となる見込みである。
- 本学の施設に要する経費は5年平均値で施設整備費約16.8億円/年、維持管理費約15.7億円/年、光熱水費約12.3億円/年である。
- 角間キャンパスへの総合移転や病院再整備等により整備時期が集中しており、これに伴う大規模改修等の時期が集中しているため、改修時期や予算の平準化が必須である。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

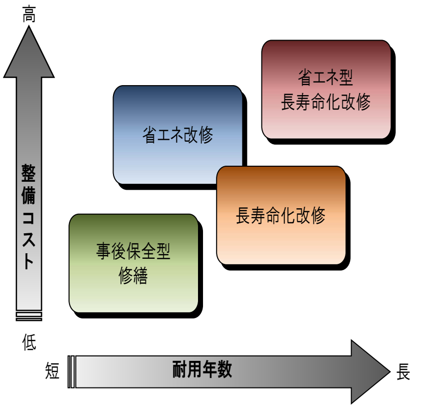
金沢大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）の概要

Ⅲ改築中心（従来の施設整備手法）から長寿命化（今後の施設整備手法）への転換イメージ



改修等の基本的な方針

改修工事を行う場合はライフサイクルコストの縮減が可能な長寿命化改修を行う。また予防保全を行い、機能・性能の保持・回復を図り、突発的な事故等による教育研究へ支障をきたす等のリスクを回避する。



Ⅳ長寿命化の実施計画

1．改修等の優先順位付けと実施計画

目視点検により施設の劣化度を5段階に評価し、優先順位付けを行う。その優先順位付けを基に、計画を策定する。

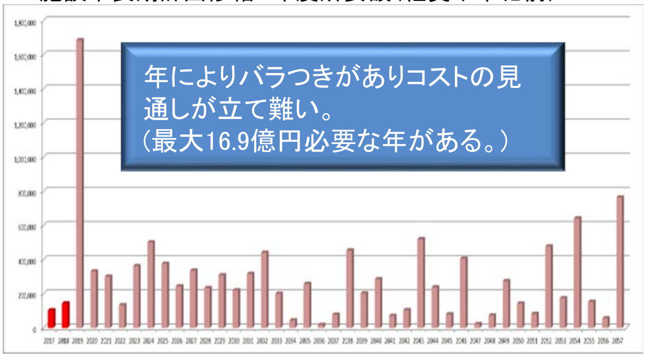
2．長寿命化のコストの見通し，長寿命化の効果

修繕に必要な経費を試算すると、最大16.9億円必要となる年があり、年平均7億円となる。大学の財政状況を鑑みて修繕に必要な経費を上限額約4億円/年に平準化する計画とした。

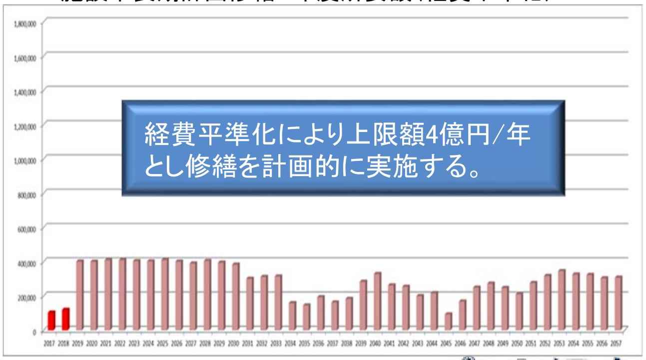
保全優先度判定表（目視点検）

施設重要度 ＼ 劣化度		Ⅴ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
		20点未満	20点以上 45点未満	45点以上 70点未満	70点以上 90点未満	90点以上
ⅰ	教育・研究施設，体育施設（指定避難所），管理施設，附属病院，附属学校園，設備室，基幹設備（ライフライン）	優先度1	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5
ⅱ	宿泊施設，附属図書館，その他の工作物（道路，擁壁等）	優先度2	優先度3	優先度4	優先度5	優先度6
ⅲ	支援施設，体育施設（Ⅰ以外），その他の工作物（Ⅱ以外）	優先度3	優先度4	優先度5	優先度6	優先度7

施設中長期計画修繕　年度所要額（経費平準化前）



施設中長期計画修繕　年度所要額（経費平準化）



予算等のリソース

実施予算については、予防保全的改修は学内予算（教育研究基盤施設予防保全・再生整備費等）、大規模改修は施設整備補助金，施設費交付金（営繕事業）等の国の予算を原資とする。

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY